

## 製品のカーボンフットプリントの算定に関する JIS 制定

—国際規格に準拠した信頼性の高い環境情報の算定と活用に向けて—

2026 年 3 月 26 日

企業の事業活動や製品・サービスにより生じる温室効果ガス排出量などの環境情報は、企業の経営判断や消費者の商品選択などにおいて広く活用されています。また、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量削減の取組を「見える化」し、気候変動対策に資する資金循環や持続可能な消費行動につなげる動きも加速しています。

そのような中で、今次、製品のカーボンフットプリント(CFP)<sup>※</sup>の算定方法を規定する JIS を制定しました。本 JIS は、CFP の定量化に関する原則、要求事項や指針を規定するものであり、対応する国際規格と整合しています。

これにより、企業等は温室効果ガスの排出管理を高い信頼性を持って実施することが可能となり、製品・サービスの環境価値が適正に評価されることで、国際競争力の向上やサプライチェーン全体での温暖化対策の推進などが期待されます。

※ 製品のカーボンフットプリント (CFP : carbon footprint of a product) とは、製品又はサービスのライフサイクルにおける温室効果ガス排出量のこと。

### 1. JIS 制定の目的

近年、企業の事業活動や製品・サービスによって生じる温室効果ガス排出量などの環境情報は、企業等における経営判断やサプライチェーン管理、投資家による投資判断、消費者による商品選択といった様々な場面において、広く活用されています。2050 年のカーボンニュートラル実現に向けて、企業や自治体をはじめとする多様な組織により、温室効果ガス排出量をサプライチェーン全体で削減する取組や、その取組の可視化（見える化）を進める動きも加速しており、気候変動対策に資する資金循環の促進や持続可能な消費行動への転換が期待されています。

このような背景を踏まえ、CFP の算定方法について規定する JIS (JIS Q 14067) を新たに制定しました。

本 JIS は、国際規格 ISO 14067:2018 に対応する国家規格です。本 JIS の制定により、国際的に認められた方法に基づき、信頼性の高い CFP を算定することが可能となります。

### 2. JIS 制定の主なポイント

JIS Q 14067 は、温室効果ガス算定などに関連する国家規格群の一部を構成し（下図参照）、ライフサイクルアセスメント (LCA) に関する規格である JIS Q 14040 及び JIS Q 14044 と整合した形で、CFP の定量化に関する原則、要求事項及び指針を規定しています。また、製品・サービスに係る原材料調達、設計、生産、輸送・受渡し、使用及び使用後の取扱いを含めてライフサイクル全体を考慮し、各段階で発生する温室効果ガス排出量を活動量データと排出係数に基づいて算定し、二酸化炭素換算値として合算する方法についても規定しています。

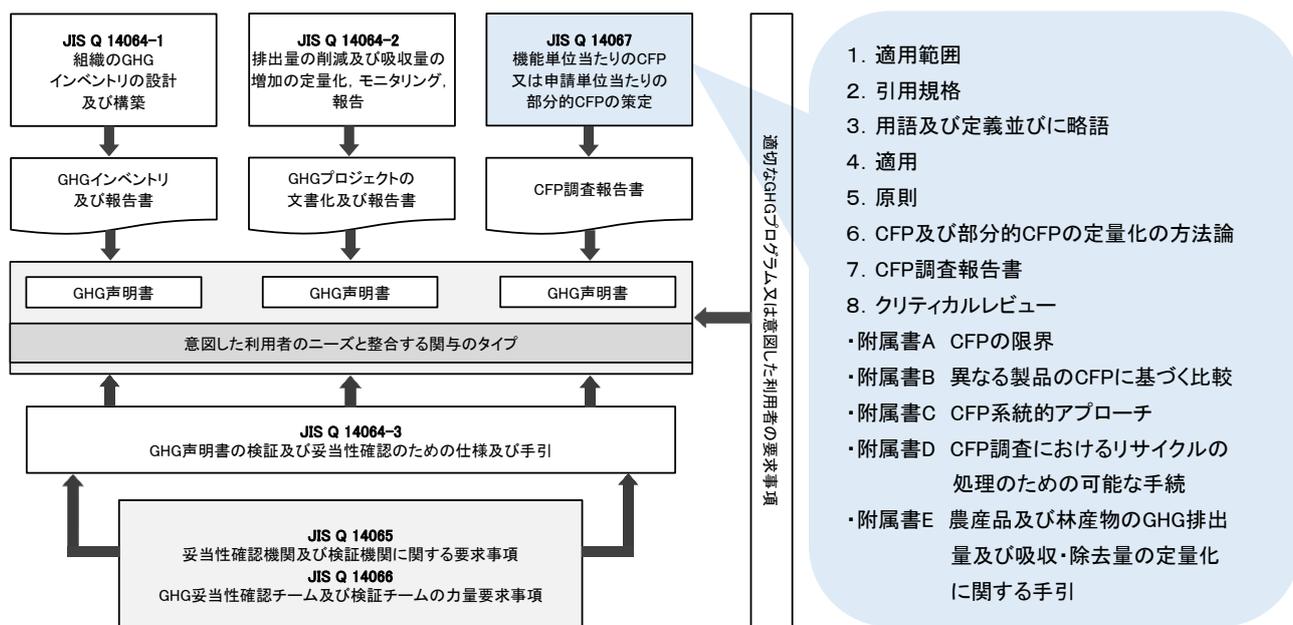


図 JIS Q 14067 と温暖化対策に資する関連規格との関係

### 3. 期待される効果

本 JIS に基づき、企業や自治体をはじめとする多様な組織が、国際規格に整合した方法で CFP の算定を実施することで、ライフサイクルにおける温室効果ガスの排出管理を適切に行うことが可能となります。

これにより、企業等が、温室効果ガス排出量の低減に資する製品・サービスを開発することや、温室効果ガス排出量の削減を考慮して製品・サービスを選択することなどに繋がる効果も見込まれます。加えて、本 JIS を活用し、国際規格に整合した方法に基づき算定された CFP を製品・サービスに明示することで、我が国の製品・サービスの環境価値が国際的に評価され、国際市場における競争力の強化に資することも期待されます。これら一連の効果により、我が国のサプライチェーン全体における温暖化対策が一層推進されることが期待されます。

※日本産業標準調査会（JISC）の HP (<https://www.jisc.go.jp/>) から、「Q14067」で JIS 検索すると本文を閲覧できます。

#### 【担当】

経済産業省 イノベーション・環境局 国際標準課

[bzl-s-kijun-ISO@meti.go.jp](mailto:bzl-s-kijun-ISO@meti.go.jp) 03-3501-1511(内線 3423)

(課長)中野 (担当)湯川、本田、宇野、海沼、久保田